

# 事業評価票

<b>13</b>	<b>職場環境測定事業</b> (総務局人事部／一般会計)	事業開始	昭和 60 年度
		事業終了予定	平成 - 年度

## 【局評価】

**1 どのような経緯で事業を始めたか、何を指すのか**

- 都は労働安全衛生法第65条において、事業者として作業場における作業環境測定を行う義務を負っている。
- 各職場における作業環境測定を適切に実施し、職場における環境改善に寄与することを目的とする。
- 各職場が容易に作業環境を測定できるよう、人事部職員支援課にて測定機器を借り受け、希望する職場への貸し出しを開始した。

根拠法令等	労働安全衛生法
-------	---------

**2 どのように取り組み、どのような成果があったか**

- 希望する職場に対して測定機器の貸し出しを行っている。
- 測定機器を借り受けた職場で実施した環境測定結果については、職場の安全衛生委員会や産業医と共有し、その対策を検討・実施することで、職場の衛生水準の向上等に役立っている。

## 【財務局評価】

**3 どのような課題や問題点があったか**

- リースによる費用と比べ、購入に要する費用が比較的割安である。経費の適正化の観点から、測定機器の取得方法について検討を行う必要がある。

**4 局として、事業をどうしていきたいか**

拡大・充実	<u>見直し・再構築</u>	移管・終了	その他
-------	----------------	-------	-----

- 従来のリースから購入に切り替えることによる経費の効果を検証した。
- 結果、以下のとおり、リースから購入に切り替えることで、購入時年度では微増となるものの、経年では大幅な経費の縮減が可能である。

《購入前後のコスト比較(発生主義による試算)》  
(単位:千円)

区 分	リース	購 入
耐用年数	5年	5年
減価償却費	-	55
貸借料	300	-
合計(年間)	300	55

<b>歳入</b>	25年度決算額	-	千円	<b>歳出</b>	25年度決算額	154	千円
	26年度予算額	-	千円		26年度予算額	300	千円
	27年度見積額	-	千円		27年度見積額	308	千円

**5 財務局として、成果や課題などについて、どう考えたか**

- リース契約より購入の方が費用対効果が高いという状況を踏まえ、適切な時期に購入契約へ切り替える必要がある。

**6 27年度予算で、どのように対応したか**

拡大・充実	<u>見直し・再構築</u>	移管・終了	その他
-------	----------------	-------	-----

- 経費効果の検証において、購入の方が費用対効果が高く、さらに、リース契約が満了する年度を契機に購入へ切り替えており、局見積額のとおり計上する。

<b>歳入</b>	27年度予算額	-	千円
<b>歳出</b>	27年度予算額	308	千円

# 事業評価票

<b>16</b>	<b>専門家PT等運営委託</b> (総務局総合防災部／一般会計)	事業開始	平成 27 年度
		事業終了予定	平成 — 年度

**【局評価】**

<b>1</b>	<b>どのような経緯で事業を始めたか、何を指すのか</b>
<p>○ 東京都防災会議は、災害対策基本法に基づき設置される知事の附属機関であり、東京都地域防災計画の修正及びその実施の推進等を所掌している。</p> <p>○ 平成24年6月の災害対策基本法の改正に伴い、東京都防災会議においても、「自主防災組織を構成する者又は学識経験のある者」を委員に選任した。</p> <p>○ さらに、昨今の防災に関する様々な課題に迅速に対応するため、平成25年度には、防災会議の下部組織として学識経験者の専門委員等で構成される専門家PTを設置した。</p>	
<b>根拠法令等</b>	災害対策基本法、東京都防災会議条例

<b>2</b>	<b>どのように取り組み、どのような成果があったか</b>
<p>○ 専門家PTを開催し、災害復旧段階における女性への配慮や広域避難などの課題について、検討を行ってきた。</p> <p>○ 専門家の知見等を踏まえ、平成26年7月に東京都地域防災計画（震災編及び風水害編）の修正を行った。</p>	

<b>3</b>	<b>どのような課題や問題点があったか</b>
<p>○ 防災に関する様々な課題に対応していくためには、今後とも幅広い分野の専門家から意見等を聴取し、都の防災対策へ反映していく必要がある。</p> <p>○ 専門家PTの運営に当たっては、諸課題に対して迅速かつ柔軟に対応できるよう、効率的な運営を図ることが必要である。</p>	

<b>4</b>	<b>局として、事業をどうしていきたいか</b>																
<table border="1" style="display: inline-table; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="border: none;"><b>拡大・充実</b></td> <td style="border: none;">見直し・再構築</td> <td style="border: none;">移管・終了</td> <td style="border: none;">その他</td> </tr> </table>		<b>拡大・充実</b>	見直し・再構築	移管・終了	その他												
<b>拡大・充実</b>	見直し・再構築	移管・終了	その他														
<p>○ 専門家PTを活用し、専門家の知見等を防災対策に反映していく。</p> <p>○ PTの運営にあたっては、以下のとおり、一部業務を外部委託化することで、経費節減及び事務の効率化が可能である。</p> <p style="text-align: center;">《直営と外部委託のコスト比較(発生主義による試算)》 (単位:千円)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>直営</th> <th>委託</th> <th>差引</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>人件費</td> <td>11,711</td> <td>3,904</td> <td>△ 7,807</td> </tr> <tr> <td>事務費</td> <td>-</td> <td>5,000</td> <td>5,000</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>11,711</td> <td>8,904</td> <td>△ 2,807</td> </tr> </tbody> </table>		区分	直営	委託	差引	人件費	11,711	3,904	△ 7,807	事務費	-	5,000	5,000	合計	11,711	8,904	△ 2,807
区分	直営	委託	差引														
人件費	11,711	3,904	△ 7,807														
事務費	-	5,000	5,000														
合計	11,711	8,904	△ 2,807														
<b>歳入</b>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td>25年度決算額</td> <td style="text-align: center;">— 千円</td> </tr> <tr> <td>26年度予算額</td> <td style="text-align: center;">— 千円</td> </tr> <tr> <td>27年度見積額</td> <td style="text-align: center;">— 千円</td> </tr> </table>	25年度決算額	— 千円	26年度予算額	— 千円	27年度見積額	— 千円										
25年度決算額	— 千円																
26年度予算額	— 千円																
27年度見積額	— 千円																
<b>歳出</b>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td>25年度決算額</td> <td style="text-align: center;">— 千円</td> </tr> <tr> <td>26年度予算額</td> <td style="text-align: center;">— 千円</td> </tr> <tr> <td>27年度見積額</td> <td style="text-align: center;">5,000 千円</td> </tr> </table>	25年度決算額	— 千円	26年度予算額	— 千円	27年度見積額	5,000 千円										
25年度決算額	— 千円																
26年度予算額	— 千円																
27年度見積額	5,000 千円																

**【財務局評価】**

<b>5</b>	<b>財務局として、成果や課題などについて、どう考えたか</b>
<p>○ 防災に関する課題は多岐に渡っており、専門家PTが担う役割は非常に重要であるため、効率的な運営を図ることが求められる。</p>	

<b>6</b>	<b>27年度予算で、どのように対応したか</b>				
<table border="1" style="display: inline-table; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="border: none;"><b>拡大・充実</b></td> <td style="border: none;">見直し・再構築</td> <td style="border: none;">移管・終了</td> <td style="border: none;">その他</td> </tr> </table>		<b>拡大・充実</b>	見直し・再構築	移管・終了	その他
<b>拡大・充実</b>	見直し・再構築	移管・終了	その他		
<p>○ 一部業務を外部委託化することにより、人件費の削減及び事務の効率化に寄与している。</p> <p>○ 外部委託の内容・規模についても適正であるため、局見積額のとおり計上する。</p>					
<b>歳入</b>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td>27年度予算額</td> <td style="text-align: center;">— 千円</td> </tr> </table>	27年度予算額	— 千円		
27年度予算額	— 千円				
<b>歳出</b>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td>27年度予算額</td> <td style="text-align: center;">5,000 千円</td> </tr> </table>	27年度予算額	5,000 千円		
27年度予算額	5,000 千円				

# 事業評価票

<b>82</b>	<b>災害救助物資備蓄倉庫の維持管理</b> (福祉保健局生活福祉部／一般会計)	事業開始	昭和 22 年度
		事業終了予定	平成 ー 年度

**【局評価】**

<b>1</b>	<b>どのような経緯で事業を始めたか、何をを目指すのか</b>
○ 災害発生時における応急援助等に要するため、昭和22年度から災害救助物資備蓄倉庫の維持管理を行っている。	
<b>根拠法令等</b>	災害救助法、災害対策基本法

<b>2</b>	<b>どのように取り組み、どのような成果があったか</b>
○ 平成26年4月1日現在の倉庫数 ・直営10ヶ所、兼用11ヶ所、寄託倉庫574ヶ所  ○ 主な事業内容 ・各備蓄倉庫の維持管理 (建物警備、設備点検等) ※寄託倉庫の管理は寄託先において実施	

<b>3</b>	<b>どのような課題や問題点があったか</b>
○ 現在、各倉庫における警備方法の多くは、機械警備を採用しているが、一部の倉庫は有人警備となっており、機械警備に比べて費用対効果が低いとの課題があった。	

<b>4</b>	<b>局として、事業をどうしていきたいか</b>												
拡大・充実 <b>見直し・再構築</b> 移管・終了    その他													
○ 有人警備を行っている倉庫について、機械警備に切り替えることにより、経費の削減を図る。  《有人警備と機械警備のコスト比較(発生主義による試算)》 (単位:千円/箇所)													
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">区 分</th> <th style="width: 25%;">有 人 警 備</th> <th style="width: 25%;">機 械 警 備</th> <th style="width: 35%;">差 引</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>金 額</td> <td style="text-align: center;">708</td> <td style="text-align: center;">191</td> <td style="text-align: center;">△517</td> </tr> </tbody> </table>	区 分	有 人 警 備	機 械 警 備	差 引	金 額	708	191	△517					
区 分	有 人 警 備	機 械 警 備	差 引										
金 額	708	191	△517										
<b>歳入</b>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 25%;">25年度決算額</td> <td style="width: 25%;">— 千円</td> <td style="width: 25%;"><b>歳出</b></td> <td style="width: 25%;">25年度決算額 14,009 千円</td> </tr> <tr> <td>26年度予算額</td> <td>— 千円</td> <td>26年度予算額</td> <td>17,710 千円</td> </tr> <tr> <td>27年度見積額</td> <td>— 千円</td> <td>27年度見積額</td> <td>17,396 千円</td> </tr> </table>	25年度決算額	— 千円	<b>歳出</b>	25年度決算額 14,009 千円	26年度予算額	— 千円	26年度予算額	17,710 千円	27年度見積額	— 千円	27年度見積額	17,396 千円
25年度決算額	— 千円	<b>歳出</b>	25年度決算額 14,009 千円										
26年度予算額	— 千円	26年度予算額	17,710 千円										
27年度見積額	— 千円	27年度見積額	17,396 千円										

**【財務局評価】**

<b>5</b>	<b>財務局として、成果や課題などについて、どう考えたか</b>
○ 災害発生時に的確な対応を行うため、平常時から適切な備えを行うことは重要である。  ○ ただし、その手法については常に見直しを図り、効率的な維持管理を行っていく必要がある。	

<b>6</b>	<b>27年度予算で、どのように対応したか</b>				
拡大・充実 <b>見直し・再構築</b> 移管・終了    その他					
○ 維持管理手法について見直しが図られており、局案のとおり予算を計上する。					
<b>歳入</b>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 25%;">27年度予算額</td> <td style="width: 25%;">— 千円</td> <td style="width: 25%;"><b>歳出</b></td> <td style="width: 25%;">27年度予算額 17,396 千円</td> </tr> </table>	27年度予算額	— 千円	<b>歳出</b>	27年度予算額 17,396 千円
27年度予算額	— 千円	<b>歳出</b>	27年度予算額 17,396 千円		

# 事業評価票

**135 各ふ頭照明設備新替工事**  
(港湾局東京港管理事務所／一般会計)

事業開始	平成 25 年度
事業終了予定	平成 29 年度

【局評価】

**1 どのような経緯で事業を始めたか、何を指すのか**

- 東京港は、首都圏4,000万人の生活と産業を支える一大物流拠点として重要な役割を果たしている。
- 港湾局では、東京港の港湾機能が最大限に発揮されるよう、各種港湾施設の管理運営及び整備を行っている。この一環として、各ふ頭では街路灯等の照明設備を設置し、港湾施設の安全且つ円滑な利用に努めている。

根拠法令等 港湾法

**2 どのように取り組み、どのような成果があったか**

- 経済状況や貿易構造の変化、輸送形態の革新等に対応しながら港湾計画を策定し、当該計画に基づき外貿コンテナふ頭等をはじめとする各ふ頭の整備を行っている。
- 各ふ頭に設置している照明設備を維持するため、年間を通して点検及び交換を行っている。  
点検の際、不良箇所が判明した場合には、早急に対応し、良好な状態を維持している。

**3 どのような課題や問題点があったか**

- 東京港の各ふ頭に設置している照明設備には、主に水銀灯が用いられているが、水銀灯等は消費電力が大きく、電気料金が割高である。また定格寿命が短いため、3年程度で電球を交換する必要がある。
- 東日本大震災及び福島第一原子力発電所事故の発生を受け、東京港の各ふ頭においても省エネ・節電に向けた積極的な取組みを進めることが必要である。
- これまでのLED化計画では、省エネ期待値の単純計算等による概算費用での試算であった。そのため、平成25年度に調査委託を実施し、専門的見地から最新のLED照明商品活用による設置工事費の積算、省エネ計算に基づき試算するとともに、費用対効果を踏まえて再検討を行い、実施個所を精査し、より実際性の高い見積りを行った。

**4 局として、事業をどうしていきたいか**

拡大・充実	見直し・再構築	移管・終了	その他
-------	---------	-------	-----

- 各ふ頭の照明設備を、省エネ効果が高く定格寿命の長いLED照明に交換することで、電気料金及び維持経費の節減を図る。平成27年度は、お台場ライナーふ頭背後道路について着手する。

《水銀灯照明とLED照明のコスト比較(お台場ライナーふ頭)》単位:千円

年度		27	28	29~37	合計
水銀灯 (400W)	電気代	2,035	2,035	18,315	22,385
	交換工事費	457	457	4,113	5,027
	合計	2,492	2,492	22,428	27,412
LED照明 (88W 想定)	電気代	2,035	437	3,933	6,405
	交換工事費	20,536	0	0	20,536
	合計	22,571	437	3,933	26,941

歳入	25年度決算額	— 千円	歳出	25年度決算額	2,864 千円
	26年度予算額	— 千円		26年度予算額	6,882 千円
	27年度見積額	— 千円		27年度見積額	20,163 千円

【財務局評価】

**5 財務局として、成果や課題などについて、どう考えたか**

- 水銀灯等は、消費電力が大きく電気料金が割高であること、また、3年程度で交換する必要があることから、省エネ効果が高く定格寿命の長いLED照明に交換することは妥当である。
- LED照明への交換によって、11年間で約47万円の経費縮減が見込まれる。

**6 27年度予算で、どのように対応したか**

拡大・充実	見直し・再構築	移管・終了	その他
-------	---------	-------	-----

- LED照明に交換することにより、電気料金及び維持経費の縮減が見込まれることから、見積額のとおり計上する。

歳入	27年度予算額	— 千円
歳出	27年度予算額	20,163 千円

# 事業評価票

<b>183</b>	<b>ウィルス対策ソフト等のリースから購入への変更</b> (警視庁総務部／一般会計)	事業開始	平成 27 年度
		事業終了予定	平成 — 年度

**【局評価】**

<b>1</b>	<b>どのような経緯で事業を始めたか、何を指すのか</b>
<p>○ 現在、都民生活の平穏と安全を確保する各種治安対策を推進するため、警察情報管理システムを運営している。</p> <p>○ システムで使用するパソコン端末数は増加しているため、維持管理経費の削減を図るものである。</p>	
<b>根拠法令等</b>	

<b>2</b>	<b>どのように取り組み、どのような成果があったか</b>
<p>○ パソコンのリース契約の際は、必要なスペック及びソフトを検討し、必要最小限のものに限って導入してきている。</p> <p>○ 文書作成ソフトや表計算ソフト、ウィルス対策ソフト等は、業務を推進する上で欠くことができないものである。</p>	

<b>3</b>	<b>どのような課題や問題点があったか</b>
<p>○ パソコンのリース契約をウィルス対策等の各種ソフトを含めたリース契約としているため、経費が割高となっている。</p>	

<b>4</b>	<b>局として、事業をどうしていきたいか</b>																
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 25%;">拡大・充実</td> <td style="width: 25%; text-align: center;"><u>見直し・再構築</u></td> <td style="width: 25%;">移管・終了</td> <td style="width: 25%;">その他</td> </tr> </table>		拡大・充実	<u>見直し・再構築</u>	移管・終了	その他												
拡大・充実	<u>見直し・再構築</u>	移管・終了	その他														
<p>○ 現行パソコン（ソフト込み）のリースと、パソコンはリース・ソフトは購入とのコスト比較を行った結果、より経済的な「ハードはリース対応、ソフトは購入対応」とすることで、全体経費を削減する。</p> <p>※ 平年度経費</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 40%;">現行</td> <td style="width: 60%; text-align: right;">4,355,815千円</td> </tr> <tr> <td>見直し後（H31～）</td> <td style="text-align: right;">4,093,480千円</td> </tr> <tr> <td>削減額</td> <td style="text-align: right;">△262,335千円</td> </tr> </table>		現行	4,355,815千円	見直し後（H31～）	4,093,480千円	削減額	△262,335千円										
現行	4,355,815千円																
見直し後（H31～）	4,093,480千円																
削減額	△262,335千円																
<b>歳入</b>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 25%;">25年度決算額</td> <td style="width: 25%; text-align: center;">— 千円</td> <td style="width: 25%;"></td> <td style="width: 25%;"></td> </tr> <tr> <td>26年度予算額</td> <td style="text-align: center;">— 千円</td> <td style="text-align: center;"><b>歳出</b></td> <td>25年度決算額</td> </tr> <tr> <td>27年度見積額</td> <td style="text-align: center;">— 千円</td> <td>26年度予算額</td> <td style="text-align: right;">4,355,815 千円</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>27年度見積額</td> <td style="text-align: right;">4,520,763 千円</td> </tr> </table>	25年度決算額	— 千円			26年度予算額	— 千円	<b>歳出</b>	25年度決算額	27年度見積額	— 千円	26年度予算額	4,355,815 千円			27年度見積額	4,520,763 千円
25年度決算額	— 千円																
26年度予算額	— 千円	<b>歳出</b>	25年度決算額														
27年度見積額	— 千円	26年度予算額	4,355,815 千円														
		27年度見積額	4,520,763 千円														

**【財務局評価】**

<b>5</b>	<b>財務局として、成果や課題などについて、どう考えたか</b>
<p>○ 今後のリース更新時に、「ハードはリース対応、ソフトは購入対応」とすることで、全体経費の削減を図ることができ妥当である。</p>	

<b>6</b>	<b>27年度予算で、どのように対応したか</b>								
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 25%;">拡大・充実</td> <td style="width: 25%; text-align: center;"><u>見直し・再構築</u></td> <td style="width: 25%;">移管・終了</td> <td style="width: 25%;">その他</td> </tr> </table>		拡大・充実	<u>見直し・再構築</u>	移管・終了	その他				
拡大・充実	<u>見直し・再構築</u>	移管・終了	その他						
<p>○ コスト比較を踏まえた積算となっており、見積額のとおり計上する。</p>									
<b>歳入</b>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 25%;"></td> <td style="width: 25%; text-align: center;"><b>27年度予算額</b></td> <td style="width: 25%; text-align: center;">— 千円</td> <td style="width: 25%;"></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;"><b>歳出</b></td> <td style="text-align: center;"><b>27年度予算額</b></td> <td style="text-align: right;">4,520,763 千円</td> <td></td> </tr> </table>		<b>27年度予算額</b>	— 千円		<b>歳出</b>	<b>27年度予算額</b>	4,520,763 千円	
	<b>27年度予算額</b>	— 千円							
<b>歳出</b>	<b>27年度予算額</b>	4,520,763 千円							

# 事業評価票

197	映像伝送装置の更新 (東京消防庁警防部／一般会計)	事業開始	平成 20 年度
		事業終了予定	平成 — 年度

## 【局評価】

1 どのような経緯で事業を始めたか、何を指すのか	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 災害情報の伝達は主に消防無線で行っていたが、映像伝送装置の整備により、警防本部及び方面本部において災害現場からリアルタイムで撮影した動画映像を受信し、視覚的に災害情報を把握することができる。</li> <li>○ これにより、現場活動への具体的な支援、安全管理体制の強化及び適切な部隊運用を図っている。</li> </ul>	
根拠法令等	

2 どのように取り組み、どのような成果があったか							
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 警防本部及び方面本部の指揮隊に映像伝送装置を整備し、災害現場をリアルタイムで撮影・記録し、警防本部等の指揮支援などに活用している。</li> <li>○ 火災等の災害の現場で記録した映像を警防対策会議などで情報提供し、消防活動上の推奨事項や反省事項の検証を行い、消防施策に反映させている。</li> </ul> <p>【近年の主な大規模災害】</p> <table border="0"> <tr> <td>平成26年 5月</td> <td>マグネシウム工場火災</td> </tr> <tr> <td>平成26年 5月</td> <td>奥多摩町山林火災</td> </tr> <tr> <td>平成25年12月</td> <td>京浜港船舶火災</td> </tr> </table>		平成26年 5月	マグネシウム工場火災	平成26年 5月	奥多摩町山林火災	平成25年12月	京浜港船舶火災
平成26年 5月	マグネシウム工場火災						
平成26年 5月	奥多摩町山林火災						
平成25年12月	京浜港船舶火災						

## 【財務局評価】

5 財務局として、成果や課題などについて、どう考えたか	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 映像伝送装置により、災害現場映像を具体的な視覚情報として共有することが可能となり、適切な部隊運用を図ることができるなどの効果が得られる。</li> <li>○ 映像伝送機能が一体となったスマートフォン型へ更新し、かつ6年リースとすることは、小型化による機動性の向上と維持管理経費の削減を図ることができ妥当である。</li> </ul>	

3 どのような課題や問題点があったか	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 映像伝送に際して、ビデオカメラと別に送信装置がそれぞれ必要であり、災害現場での機動性等に課題が生じていた。</li> <li>○ 警防本部及び方面本部間ではネットワークが構築されていないため、方面本部で受信した映像について部隊管理等を行う警防本部で同時に共有できなかった。</li> <li>○ 備品により整備した専用のビデオカメラ等を用いていることから、機器の不具合時には修繕に時間が必要であり、情報収集体制に支障をきたす恐れがあった。</li> </ul>	

4 局として、事業をどうしていきたいか									
拡大・充実	見直し・再構築	移管・終了	その他						
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 撮影装置と送信装置を一体化したスマートフォン型に更新し、災害現場での機動性を向上させる。</li> <li>○ ネットワークの構成を見直し、各指揮隊の撮影した映像を各本部で受信できる体制を確保し、情報の共有を図る。</li> <li>○ 購入からリースに切り替え、維持管理経費を削減するとともに、機器の不具合時には代替機により情報収集体制の確保を図る。</li> </ul> <p>※ 1年平均経費比較</p> <table border="0"> <tr> <td>備品 (7年更新)</td> <td>9,295千円</td> </tr> <tr> <td>リース (6年)</td> <td>8,305千円</td> </tr> <tr> <td>縮減額</td> <td>△990千円</td> </tr> </table>				備品 (7年更新)	9,295千円	リース (6年)	8,305千円	縮減額	△990千円
備品 (7年更新)	9,295千円								
リース (6年)	8,305千円								
縮減額	△990千円								
歳入	25年度決算額	— 千円	歳出	25年度決算額	5,407 千円				
	26年度予算額	— 千円		26年度予算額	5,561 千円				
	27年度見積額	— 千円		27年度見積額	8,305 千円				

6 27年度予算で、どのように対応したか			
拡大・充実	見直し・再構築	移管・終了	その他
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ コスト比較を踏まえた積算となっており、業務の円滑な遂行にも寄与するものであることから、見積額のとおり計上する。</li> </ul>			
歳入	27年度予算額	— 千円	
歳出	27年度予算額	8,305 千円	